
初恋ものがたり

灰音 四音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初恋ものがたり

【Nコード】

N8698Y

【作者名】

灰音 四音

【あらすじ】

僕が先輩と出会ったのは林檎の花咲く5月頃。彼女との出会いは偶然で、逢うつもりも毛頭ありませんでした。その日から、先輩に振り回される日々が始まったのです。

紅い林檎のように僕たちは初めての感情に染まっていきます。

僕は一体、どうしたらいいのでしょうか。

出会い

僕が先輩と出会ったのは、四月の半ば頃でした。新学期が始まりひとつ学年が上がって少々浮かれていた僕は、その時、今季最大のピンチを迎えていました。簡単に言えば、寝坊したせいで遅刻をしてしまいそうだったのです。

そんな訳で僕は自転車に跨り、全力でペダルをこいでいたのですが、どうにも間に合いそうにありません。僕の腕時計は八時二十分を示していて、あと五分もすればHRが始まっています。間に合う可能性があるとすれば、視界の右側に広がる林檎畑を横切ることだけでしよう。

僕の家と学校は直線距離だとかなり近くなるのですが、その間に林檎畑があるので迂回しなければならぬのです。

(今日だけ、今日だけ、今日だけ……)

念仏のように何度もそれを唱えながら自転車のハンドルの方向を変え、林檎畑を駆けはじめました。正直、いけないことをしている自覚があったので、内心ビクビクしながら畑の中を走っていたのですが、案の定といたしますか、林檎の木の下に人影を見つけました。人の姿を見つけたと同時に、通り過ぎてしまったので良くは見えませんでした。きれいな黒髪と、白い花飾りが印象的な、美しい女人だったと思います。

「おーい、その君！ 自転車の君だよ！ 止まってー。おーい！」

声に従って自転車を止めて振り返ると、先程見つけた花飾りの人が、僕のことを追いかけてきてるではありませんか。

「よかったあ、止まってくれた！。ちよつと荷台に乗せてくれない？」

「どうして僕が!?!」

「私先輩、あなた後輩。ほら早く！ 遅刻するよ」

確かに彼女は同じ学校の制服に身を包み、最高学年を示す赤いタイを身につけています。ですが納得がいきません。何故後輩というだけで、初対面の人を乗せなければならないのでしょうか。言いたいことは沢山ありましたが、彼女の言われた通りに後ろに乗せ、もう一度漕ぎ出しました。

「いやあ、ありがとう後輩君。自転車でうちの畑に入ったこと、父さんと母さんには黙っていてあげるよ」

これが彼女　一宮先輩との出会いだったのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8698y/>

初恋ものがたり

2011年11月26日01時50分発行